

令和3年3月12日

保護者の皆様

幼保連携型認定こども園
川島こども園

教育・保育活動についてのご意見の募集

平素より当園の教育・保育活動にご理解、ご協力くださいます
てありがとうございます。

さて、令和2年度の園の自己評価を以下のように要約し、今後
の対応につきまして記載いたしましたので、ご確認ください。また、**園の自己評価の内容につきまして**、よろしければ**本メールのアンケートにご意見をお寄せください**ますようお願いいたします。

なお、詳細な自己評価の項目につきましては園ホームページに記載してございますので、よろしければメールのリンクより
ご確認ください。

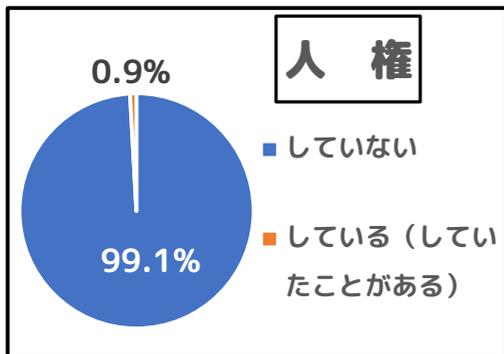
ご注意ください

- ◆ 保護者の皆さまからお寄せいただきましたご意見も参考にして、園の教育・保育の質を高めていきたいと考えています。ご協力のほど、どうぞよろしくお願ひします。
※保育の量のニーズ(要望)についてご意見をいただくものではございません。
- ◆ 園の自己評価に対するアンケートは、自己評価ガイドラインにそって行われるものであり、苦情解決の取り組みとは趣旨が異なります。
- ◆ この自己評価の内容以外のものや、個人的なご相談につきましては受け入れ職員等にお聞かせください。
- ◆ 無記名でのご意見も可能ですが、誹謗中傷ととらえられる内容がございましたらプロバイダ等へ開示請求をさせていただきます。
- ◆ コロナ禍において新しい保育の様式を模索しながら保育にあたった職員への温かいお言葉もお寄せいただきますと励みとなります。

(1) 人権尊重について

チェック項目については全国保育士会が作成した『保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～』を使用しました。

結果は下の円グラフの通りです。



全設問に対して 99.1%が望ましい対応をしていることが分かりました。(昨年度より0.3ポイント増)0.9%の望ましくない対応は主に下記の1項目に見られました。

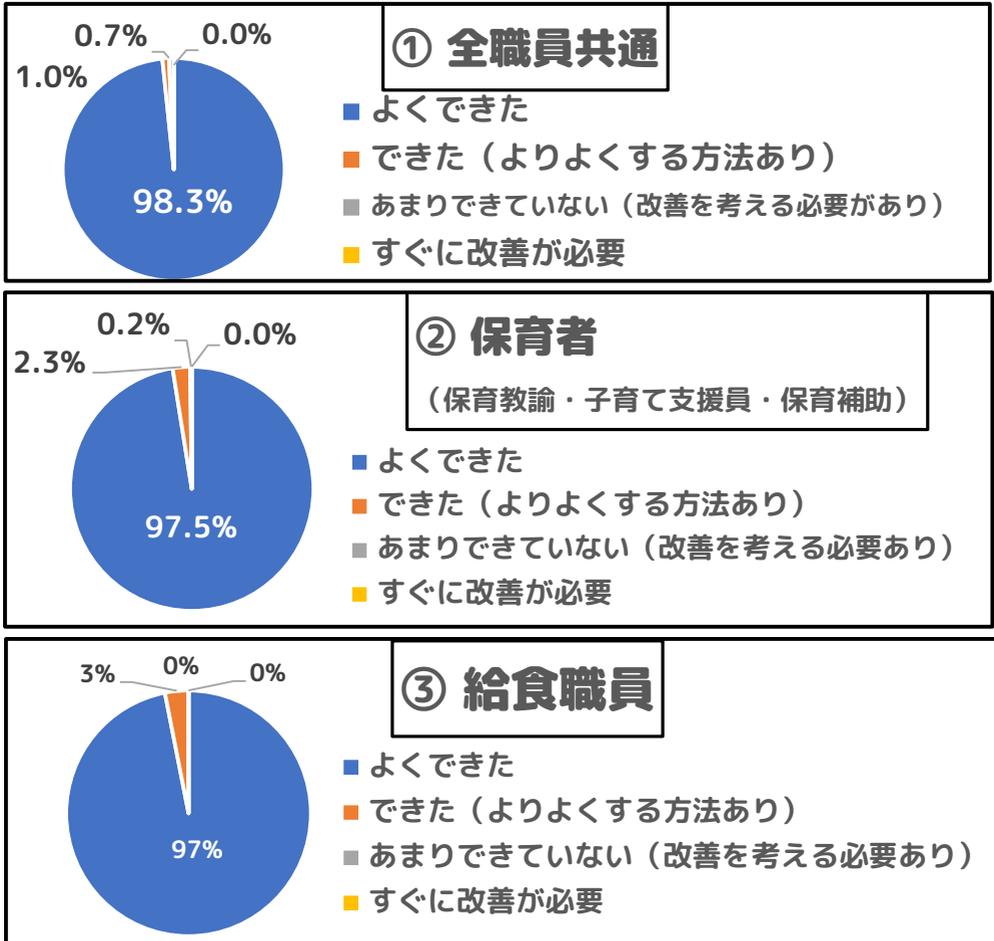
寝ずに話をしている子どもに対して、別の場所(チェックリスト原文は「外」)で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。

お昼寝中にお話しをする子は、主に体力のついてきた3歳児以降に見られます。「遊びたい子」「お昼寝したい子」と個別に対応することも考えられますが、3歳児になると「お友達と一緒に」という気持ちが芽生える時期でもあり、誰かが遊んでいれば一緒に遊びたくなくなってしまいます。すると15時ごろから眠くなってしまいう子も…。保護者の皆様としては寝かせてほしい方、寝かせてほしくない方とそれぞれ違ったご意見をお持ちであることも存じております。同年齢でグループを組んで保育をする場合の永遠の課題ではないかと思えます。当園では年少児までは年間を通じてお昼寝を行っています。お昼寝をせずに話をする子につきましてはお昼寝をしたい子の気持ちを伝えるなどして、対応をしています。どうしても、お部屋で静かに体を休めることに強い抵抗のある子につきましては事務室で対応するなどしています。「どうしても」を見極める際に不適切なかかわりを行わないよう、複数でお昼寝の対応にあたりたり、保護者の皆様より聞き取りをしたりしながら、園内で共通理解を図ってまいります。

※園のお昼寝につきましては園児の人権について記載しています。

(2) 園の運営 や 教育・保育活動について

『平成 30 年度施行 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己チェックリスト 100 CD-ROM ブック (PriPri ブックス)2016 世界文化社』を基に、園独自の項目も設定し、自己評価を行いました。



① 全職員共通、② 保育者用、③ 給食職員用といずれもよくできたとの回答が 95%以上と望ましい対応と適切な保育の提供を行っていました。その中でもよくできたの割合が 95%を下回ったものにつきまして、それぞれの改善策を掲載いたします。

① 職員共通

給食は、内容がおたよりやサンプルで周知され、おいしく彩りや栄養バランスがとれたものになっている。また、食事の提供に当たっては、特に3歳未満児において誤嚥の発生しない食材や大きさになっているかに留意し、個々に応じて小さくするなどしたり、詰め込みすぎのないよう声をかけたりしている。

今年度は提供した給食のサンプルを見てもらう機会が発表会など限られたものとなってしまいました。お迎え時にみられる場所に置くという案もございましたが、戸外ですと鳥や虫などのリスクがあります。例年ですと降園の際に「今日こんな給食を食べたんだよ」という会話が聞こえてくるなど、園での様子を子どもたちを通じて知るきっかけとなっています。毎食写真を撮っていますので、定期的に SNS 等を利用してみるなど、次年度に向けて検討をいたします。

園は必要に応じた研修を設定したり、外部の研修や資格取得に積極的に参加したりできるような取り組みを設けていることを理解している。また、自己が成長するための基本である研修に意欲をもって取り組んでいる。

保育者の自宅でもリモートの研修ができるようにセキュリティーの強化を行いました。年度当初はリモートでの研修の機会が限られており、「自分で選ぶ」という機会が少なかったため参加への意欲が下がってしまったようです。次年度も園外での研修は難しいことが想定されますので、①動画研修サービスを活用して個々に選択した動画を見る。②園内での保育の様子を撮影した映像をグループで見て課題を話し合う。 ということに園内での研修の機会を充実させていきます。時間の確保が課題ですので、限られた予算の中での配置の見直しや、場合によっては保護者の皆様への協力をあおぐなどしていきたくと考えています。

② 保育者（保育教諭・子育て支援員・保育補助）

園の保育目標、教育・保育の全体的な計画、教育課程、学校保健計画、学校安全計画、食育計画、子育ての支援計画に基づき、年間指導計画や月案などの保育計画を作成し、週やその日の指導計画を立てている。

今年度は当園自粛期間があるなど、状況に応じて保育の計画を何度も練り直していきました。感染症対策と子どもたちの関わり合いの大切さにどのように折り合いをつけるべきか迷いがありましたが、一つ一つ整理しながら進めてきました。

整理した内容を踏まえ、様々な可能性を考慮し、次年度の計画を立てていけるようにいたします。

保育参加において、教育・保育活動の理解を促すとともに、子どもを深く理解する視点を伝えたり、その実践を示したりしている。

職員間でも子どもたちの様子を保護者の皆様と共有する方法は保育参加が一番だという意識があります。一方で、万が一保護者が保菌していた場合、保育参加により園児全員が濃厚接触となってしまうおそれがあります。発表会では映像を流しましたが、映像は全体を撮ると見たいところが見えず、部分を撮るとどうしてもいいところ切り取ってしまうおそれがあります。距離をとって参観ができる「運動会」と「生活発表会」が園内でご覧いただける限界かと思います。

次年度の新たな取り組みとして、子どもたちが「お友達」を意識する時期であり、小学校への就学を見据え始める年少見以上につきましては5月に学年ごとの親子遠足を実施する方向でいます。3歳未満児につきましてはクラスだより等を活用し、子育ての支援となるような内容をお伝えできるよう改善に努めます。

園だよりやクラスだよりなどに子育ての支援となるような内容を入れて作成をしている。

クラスだよりにおいてわかりやすくお願いやお知らせを伝えようとする気持ちが先行してしまい、「子育ての支援」という観点が少ないってしまったという意見がありました。年齢や発達に応じた子育ての支援となる内容も取り入れていけるように検討してまいります。

園児の事故予防及び救急・救命処置や AED 使用法の園内研修に意欲をもって参加し、保育中も危機を想定している。また、管理職不在時も含めたいかなる状況下においても対応ができるようにマニュアルを理解している。

重大事故の発生はありませんでしたが、立ち位置によっては防げたであろう怪我や保育の中で時々危険が見られることがありました。

事前に一緒に組む職員間で、立ち位置と予想される危険を把握できるよう、**年度当初に園内での様々な場面を想定した確認**や遠足や発表会等「**普段と違う**」活動を行う前の確認を徹底し、年齢や発達に応じた事故の防止に努めてまいります。

避難訓練を行い、火災・地震・不審者侵入・洪水などを想定している。また、実際に起きても訓練のような対応ができる。

不審者訓練後に、室内遊びを想定した訓練だけでなく、戸外遊びの際の具体的な対応を確認していく必要があるという意見がありました。そこで、今年度は職員会議で共有後に各保育室で相談いたしました。**次年度の職員配置決定後にも再度確認**し、**訓練を実施**して備えてまいります。

③ 給食職員

授乳や離乳食等の時期にあたる園児に対しては家庭と連携し、発達に応じた献立を作成している。

給食室と保育室と家庭で、離乳区分の捉え方に違いがあり相互に混乱してしまう場面がございました。確認できるような表を作成し、次年度の離乳食開始前の聞き取りに使用しながらより良く改善していこうと考えています。

給食会議を定期的に行い、園児の栄養状態や喫食状況を適正に把握し、記録を作成し、食事の品質の改善に生かしている。授乳や離乳食等の時期にあたる園児に対しては家庭と連携し、発達に応じた献立を作成している。

今年度は栄養目標量を基に、塩分は控えて、カルシウムや食物繊維を食材から取り入れて目標値に近づけられるよう献立作成時には皆で検討して進めました。特に食物繊維につきましては麦ごはんやゴマ、オートミールやきくらげ等の使用などの工夫を行いました。次年度も食物繊維の量につきまして改善に努めます。

家庭から弁当を持参する園児も献立はできる限り変化に富み、園児の健全な発育に必要な栄養量を含むものとなるように、弁当の内容について保護者に指導を行っている。

今年度はコロナ禍ということもあり、家庭からのお弁当を持参していただく機会を最小限とさせていただきました。その中でも、園の給食だと未満児は提供していないもの（ミニトマトなど）がお弁当に入っていることもありました。より安全なお弁当の時間にするために保護者にも対応を伝えていきたいと考えています。